様式 C-7-2

自己評価報告書

平成 23 年 5 月 15 日現在

機関番号：８４６０２
研究種目：基盤研究（A）
研究期間：2008～2011
課題番号：２０２５１００８
研究課題名（和文）古代パルミラの葬制の変化とその社会的背景にかかわる総合的研究

研究課題名（英文）Studies on the transition of funeral practices and social backgrounds in the ancient Palmyra

研究代表者
西藤　清秀（SAITO KIYOHIDE）
奈良県立橿原考古学研究所・副所長
研究者番号：８０２５０３７２

研究分野：人文学
科研費の分科・細目：考古学

キーワード：パルミラ、葬制、地下墓、家屋墓、3 次元画像、人骨、水

１．研究計画の概要
目的：古代パルミラ墓の現地での調査・研究を通して古代パルミラ人の葬送儀礼や死生観を社会背景とともに理解すること。
内容：パルミラ博物館の西約 100m、パルミラ都市遺跡の北側の No.129-b 家屋墓の調査を考古学、建築学、形質人類学、美術史学、地質学、化学等の諸科学から上記目的の解明にせまる。

２．研究の進捗状況
現在調査を継続している No.129-b 家屋墓は、パルミラの家屋墓の中でも遺存状況が際立って良好であり、想定以上の石材量があり、倒壊過程の復元のために 3 次元計測と撤去を繰り返し実施しているが、昨年度ようやく基壇上床レベルに達した。2 カ年で基壇内の埋葬施設の調査に従事できると考えたが、3 カ年でようやく床の撤去と埋葬施設の検出に取りかかったに過ぎず、埋葬施設は予想以上に複雑な構造と想定せざるを得ず、さらに埋もれた基壇の検出での碑文を刻んだ第二門の発見や墓進入部の検出時におけるポスト･パルミラ期の 20 基以上の乳児墓の発見、さらに調査区の土壌堆積内での地震痕跡の発見等、家屋墓の建造や崩壊にかかわる新たな事実は、パルミラの隆盛期及びそれ以降の歴史の端緒を掴んだにすぎない。なお下記事項が現在進行中の項目である。
(1)家屋墓石材の３次元レーザー計測。
(2)石材の家屋墓部材想定復元位置への移動。
(3)家屋墓の基壇床下の埋葬施設の検出
(4)3 次元計測による他の家屋墓の比較調査。
(5)家屋墓前面の乳児墓の調査
(6)出土した骨の調査。
(7)人骨の DNA 調査用試料のサンプリング。
(8)建築装飾部材の実測。
(9)基壇南入口マグサ石碑文の解読。
(10)家屋墓周辺の土壌堆積での地震痕跡確認。
(11) 彫像と複顔との顔付きの比較。
(12) パルミラ遺跡周辺の水の調査。

３．現在までの達成度
本研究は、おおむね順調に進展している。
129-b 号家屋墓の 3 次元計測による石材倒壊状況のデータの連続的な蓄積により、この**墓の内外部構造の復元や倒壊過程の復元が可能**となってきた。また、南基壇下の門の碑文からローマ人がこの墓を**建造した**可能性が出てきたことは、パルミラの葬制を理解する上で重要である。さらにローマ皇帝ディオクレティアヌスの時代、A.D.3 世紀後半に家屋墓を城壁に取り込む工事に際して家屋墓基壇周辺に数十の 1 歳未満の乳児を葬っていたことが判明した。歴史記録でパルミラの崩壊理由に地震が挙げられていたが、今回、実際に地層の中に地震の痕跡を発見した。ヤルハイの復顔用頭骨のコピーを作成し、復顔を実施し、彫像と遺体の関係を言及する資料を得た。さらに水の分析からフッ素が多く含まれた水を当時から飲用していたことが明らかになりつつある。

４．今後の研究の推進方策
葬制を通してパルミラ古代社会の再構築をおこなうための 6 点の課題、(1)墓の形態・構造、(2)墓の建築学的特性、(3)埋葬形態、(4)人類学的特性（形質的特徴、家族関係・病理）、(5)社会・自然環境、(6)地震について 129-b 号家屋墓の調査と既往の調査成果を

もとに研究を実施する。平成 17 年度より調査している A.D.3 世紀の No.129-b 家屋墓は、パルミラ都市遺跡の北側に接する有力氏族の墓である。現在、この家屋墓の内外部の発掘調査と既往調査出土人骨の調査・分析を実施し、発掘調査では 3 次元計測システムを駆使し、墓の倒壊状況や石材個々のデータを収集しながら、クレーン車を用いて倒壊石材の移動をおこなっている。しかしこの家屋墓の調査もすでに 6 年あまり実施しているが、想定以上の石材量、さらに墓周辺に設けられた 20 基（2010 年度現在）以上の乳児墓の確認のため、現在なお家屋墓基壇下の埋葬施設の調査に至っていない。また墓倒壊原因の地震痕跡の発見や水等の分析による環境の復元など多方面での課題に直面している。それゆえ、今後、家屋墓埋葬施設及び乳児墓等の周辺部調査を完了させると同時に先に挙げた 6 点の課題の解明にあたりたい。

５．　代表的な研究成果
（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計 10 件）

① 西藤清秀・中橋孝博・濱崎一志・石川慎治・佐藤亜聖・佐々木玉季「パルミラの葬制の解明ーシリア・パルミラ北墓地 129-b 号墓の調査 2010―」『平成 22 年度考古学が語る古代オリエントー第 18 回西アジア発掘調査報告会報告集』 110-115 日本西アジア考古学会 2011 査読無。

② Saito,Kiyohide 「 Sheep metacarpi accompanying the dead at an underground tomb in Palmyra, Syria」『 Zeitreisen : Syrie-Palmyra-Rom 』 201-208. Phoibos Verlag, Wien 2010 査読無。

③ Saito,Kiyohide「Excavation of No.129-b House Tomb at the North Necropolis in Palmyra」『Chronique Archaeologique en Syrie』 243-259 Direction Generale des Antiquites et des Muses 2010　査読無。

④ 西藤清秀・中橋孝博・吉村和昭・石川慎治・佐藤亜聖・青柳泰介・佐々木玉季「シリア・パルミラ遺跡の家屋墓と乳児墓を掘るー北墓地 129-b 号墓の調査 2009―」『平成 21 年度考古学が語る古代オリエントー第 17 回西アジア発掘調査報告会報告集』 107-112　日本西アジア考古学会 2010 査読無。

⑤ 西藤清秀「パルミラにおける遺体の棺への納め方」『西アジア考古学』第 11 号 39-46 日本西アジア考古学会　査読有　2010。

〔学会発表〕（計 9 件）

① Saito, Kiyohide 「Female burial style in Palmyra-perspectives on underground tombs」 2-3 International Conference “Palmyra -Queen of the desert- 50 years of Polish excavations in Palmyra

② 西藤清秀・濱崎一志・石川慎治・星英司・吉村和昭「シリア・パルミラ遺跡の墓から見た 3 次元画像の活用と展望」第 26 回日本文化財科学会回総・大会、名古屋大学 2009。

③ 濱崎一志・石川慎治・西藤清秀「パルミラ遺跡北墓地 129-b 号墓の復元について」『日本建築学会学術講演梗概集 F-2 建築歴史・意匠』　日本建築学会 2008.09.18-20 広島大学。

④ Saito, Kiyohide「Sheep metacarpal bones accompanying the dead at an underground tomb in Palmyra」『WAC-6 IRELAND 2008』 World Archaeological Congress 2008.06.30 University College Dublin.

〔図書〕（計　件）

〔産業財産権〕
○出願状況（計　件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

○取得状況（計　件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

〔その他〕
展覧会（パネル展）
「パルミラ遺跡発掘調査における 3 次元計測の活用」岡山市立オリエント美術館 (2010.9.22-11.7)
「西アジア海外調査速報 2009：パルミラの発掘調査最新成果」 古代オリエント博物館 (2010. 2.20-5.5)。
テレビ番組監修
TBS「世界遺産」パルミラ遺跡（シリア） 2011.04.17 放映。
TBS「世界ふしぎ発見―第 1119 回　甦る！謎の地下世界と悲劇の女王」2009.10.24 放映。